

都市農業を考える研修会

農園「杉・五兵衛」で開催

8月6日、大阪府農業会議と大阪府農業法人協会、大阪府農業経営者会議は、枚方市の農園杉・五兵衛で、都市農業を考える研修会を開いた。都市農業振興基本法の施行から10年の経過を契機に、都市農業の歴史・意義と持続的発展を考えるために実施したもので、府内農業者や農業関係者など45人が参加した。当日は、明治大学客員教授で農業ジャーナリストの榎田みどり氏と大阪公立大学農学部教授の横井修司氏が講演した。

講演要旨

堅島氏と都市農業政策の確立

農業ジャーナリスト 榎田 みどり 氏

本年3月に他界した堅島五兵衛氏は、昭和47年に「杉・五兵衛」を創業した。規模拡大やスケールメリットの追求ではなく、農の魅力を活かすことを重視し、都市住民に農園での体験を提供するという当時珍しかった経営スタイルは、都市部における観光農園の先駆けとなった。



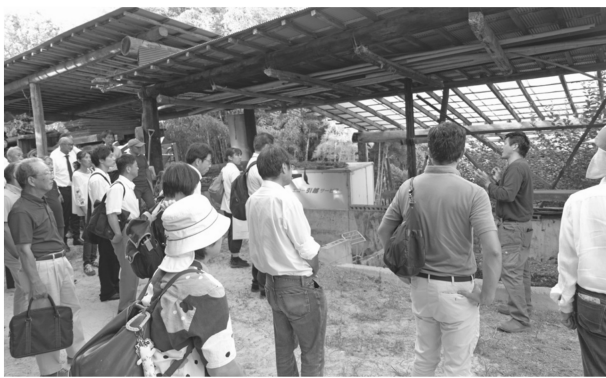
榎田みどり氏

その後、都市農業が生き残るためには政策に位置付けられることが不可欠と考えた堅島氏は、20年近くに渡ってこれに心血を注いだ。国に直接意見を述べられる組織としての大阪府農業法人協会の設立に奔走。以降、農林水産省等関係省庁や国会等に働きかけ、都市農地の位置づけや法律制定の必要性を訴え続けた。平成27年に成立した都市農業振興基本法は、都市農業の安定的な継続、多面的機能の発揮、良好な都市環境の形成といった理念を明記。都市農業の機能が明文化されたことは、堅島氏の

悲願の一つが形となったと言えるが、一方で制度を維持するには、その公益性を都市住民に理解してもらうことが不可欠とも考えていた。

私自身が令和元年に世界都市農業サミットに参加した際、都市農業が様々な社会問題の解決に貢献している事例を知り、都市農業が格差拡大へのリスクヘッジや社会的包摂の場として貢献する可能性は大きいと感じた。

堅島氏もこうした実践を次の世代に託していたのではないかなと思う。



現代表の堅島郷氏の案内で農園見学を行った

講演要旨

大阪公立大学が提案する都市農業

大阪公立大学教授 横井 修司 氏

本学の農学部は、大学統合時の改組に伴って誕生。自身はフィールド長として、学内の農場を活用して再生可能な都市農業、人材育成を柱に据えて研究を行っている。

今後、人口減少により都市に空き地が増えるが、これを農業に活用する方法を研究している。農業は食料生産だけでなく、従事者や地域住民の健康や心の豊かさを支える機能もあり、移動式のコンテナ型農場を活用し福祉分野と連携した農業の取り組みも進めている。地域社会における公益性の観点からも推進す

る意義がある。

また、将来の担い手確保に向けては、広く農業への関心を持つってもらうことが重要と考え、若いターゲットとして小学生に本格的な米づくり指導を実践している。また、社会人へのアプローチとして、例えば仕事帰りに居酒屋ではなく農園に立ち寄り、そこを交流拠点とするような農業も提案している。

技術面でも自動制御で水や養分を与える研究を進め一定の品質収量は確保できるようにした。新規就農者の「どう作れば良いか分からない」という不安の解消に繋がると考えている。

様々な形で農への入口を設けようとしているが、特に技術研修・指導については、農家の方々に協力をいただくことが不可欠である。最終的には農業現場に還元できる取り組みを目指したい。



横井修司教授

堅島五兵衛氏を偲ぶ会開く

研修会終了後、杉・五兵衛において、堅島五兵衛氏を偲ぶ会を開催。氏とゆかりの深かった農業者など27人が出席し、都市

農業政策の確立に尽力した堅島氏の功績と生前の交流に思いを馳せ、偲んだ。

(沼田)